

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

どの講義においても、各自で考える場面を設定しているつもりであったが、今回は講義の可塑性が失われていたように感じる。
長年同じ講義をしている故のマンネリ化が原因のようだ。新年度はシラバスを見直し、講義の組み立てをいづらか変えようと思う。

演習や実習を含む回(8回程度)を対面授業で、講義(7回程度)をオンデマンド授業で、というように内容に合わせて授業形態を変えながら実施した。
アンケートの回答で「提出課題に対するフィードバックが少ない」という指摘があり、個々の提出物に対するコメントや全体に対する講評をもう少し入念にオンデマンド回の中で提供することが必要であったと考える。

授業動画を復習のためにまなびねつとに掲載していること。

自分なりの問題意識をもたせるように授業展開を考えている。
事後の振り返りを大事にし、次への意欲化につながるようにしている。
考える時間を十分に確保し、多面的多角的に討論できるようにしていきたい。

独自に工夫している点:まなびネットを活用することによって、1人ひとりの受講生の課題をもれなくチェックすることができました。
こらからの改善点:中国語の発音チェックを徹底的にするようにします。ただし受講生の人数(50人)のこともあり、一回の授業で受講生の発音を把握することは難しいが、学びねつとでの音声データの提出をお願いします。

グループに分かれてグループ学習をし、その中に教員が入って一緒にディスカッションに参加した。
個別の学習状況の把握が不十分だったところもあるため、次回から個別に理解状況を把握できるようにグループ内に入る時間や相互のやり取りを増やす。

学校現場において実際に指導することを具体的にイメージできるように、学校的に講義を進めている。今後もそうした面を大切にしたい。

工夫させていただいた点は、ヘルスリテラシーを学んで身につけていただくことを目的としましたので、なるべく多くの知識、考え方を知っていただくように画像などを用いて説明するようにしました。
アンケート結果からは、自ら学んだり調べたりする面が少なかったように読みとれましたので、次の授業時には自己学習やディスカッション、プレゼンテーションなどを入れていきたいと思います。

学生が主体的に思考できる活動を適宜、組み入れている。より学生が主体的に情報収集、協働活動ができるような改善を導入したい。

- ・できる限り対面授業のメリットを生かし、ペアトーク・グループトークなどを取り入れて双方向の授業づくりをしている。
- ・授業で扱う資料は学生の要望に応じて事前に配付し、予復習に使用できるようにしている。
- ・学生が提出した課題については次の回の講義で評価を具体的に提示して述べ、よりよい学びを共有できるようにしている。
- ・アンケートを受けての改善点としては、グループでの単元構想作成の課題について成績をつける際の評価規準を明確に学生に提示していく必要があると考えている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生が立案した学習指導案に基づいた模擬授業を中心に授業を行いました。振り返りにも力点を置き、成果と課題を学生間で共有できるよう工夫しました。
実践的だと評価を受ける反面、グループ間討議等、共有する場面をより充実させるとよかったようにも思います。

- ・使用教室と受講人数の関係で、対面授業と遠隔授業を交互に実施することになり、学生には不便をかけたように感じる。その分、できるだけメール等で連絡を取り合うように心がけた。
- ・指導案作成は個別に指導が行き渡るように、個々の学生とのコミュニケーションの時間確保に心がけた。十分とはいえないが、少しでも個別具体的な話ができたのではないかと思う。
- ・遠隔授業での課題設定は、明確な解答を求めるような課題ではなく、できるだけ学生自身があれこれと思考できるような課題を心がけた。こちらからの資料提示をどのように受け止め、どのように解決策を考えるか、というところに学びがあると思い設定した。学生の中には具体的課題の方がレポートしやすいと思った節もあると思うので、今後の課題設定は、さまざまな角度からの提示を考えたいと思う。

- ・できる限り、学んだ知識をどのように活用していくのか、理論と実践の往還ができるよう講義の形態を工夫しました。コメントにもその点を評価してくれたものもあり、一定の成果はあったものと考えます。
- ・JAMBORDを活用した取り組みに挑戦することにより、教育現場でICTツールを活用した授業のイメージを持ってもらえるよう工夫しました。
- ・質問やコメントがあまりなかったという評価もあったため、もう少し教員と双方向でやり取りできるよう工夫していく必要があると感じました。

基礎的な知識理解を求める場合は定着を求めるため例題の取組みを、応用力を求める場合は学習者とのキャッチボールを多く取り入れた授業方法を採用した。アンケートの回答結果は概ね肯定的であったが回答率が100%になるぐらいの更なる緻密な授業を実施したい。

学校現場で使える基本的なスキルを習得するための実技を多く行った。他教科でも使える単元構想や指導案作成等についても交えながら講義を行った。

Teamsを使用しています。クラス単位での管理が可能です。
いつも授業が終わってから授業アンケートを読みますが、もっと早く言ってくれたら改善したのにと後悔します。できるだけ学生の声を聞いて反映させたいと感じています。

ICTを活用した授業(学びネットを使って、授業資料を事前に配布)
スライド上の文字が多すぎるとの指摘があったので、その点を改善する。

次回の授業テーマについて、あらかじめ学生に提示し、事前に調べ学習を行なった上で授業に臨むようにしている。また、対話型で授業を行っており、他の授業参加者の価値観にも触れることができるようにしている。

授業方法について独自に工夫している点は特にない。アンケートの結果を受けては、理解しやすいように、資料や機器の利用、活動環境設定、コメント提供などに工夫のある教え方をすることについて、および授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取らせることについては課題であると感じている。前者については他の教員の公開授業に参加するなどして教え方のレパートリーを増やしていきたい。後者については、関心をもたせるように、参考文献を調べることやネット検索などを促していきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

指示を明確にし、受講者が理解しやすいよう、これからも授業を組み立てていきたいと思っています。

未回答が多いので、全体の傾向はつかめませんが、授業の工夫した点については、実際の小学校算数の授業場面を設定して、子どもがつまづきやすい点を取り上げた。
学生の状況をさらに把握して授業を進める必要があると感じている。

毎回の授業の復習を促すために、授業の理解度を確認するための「理解度チェック表」を配布しており、かつ次の授業の開始時に復習テストを実施して成績評価に加えている。

学生が理解を深め、「自分で考える」ことを習慣づけるために、授業では学生の意見や考えを聞くように努めたつもりでしたが、まだまだ不十分だということがわかりました。
学生が学びを深めたいと思うような新しい知見や最新の情報、課題を身近な事柄と関連づけながら提示するなどの工夫をしたいと思います。

メールなどでの学生の質問にすぐに回答するようにした。また、オンデマンドを適宜利用し、各自でまなびのペースを選べるようにした。今後は集団討議などを適宜増やして、学生同士のつながりを増やしたい。

できる限り分かりやすい資料・教材を使用し、授業することを心がけている。今回はあまり学生とのコミュニケーションが希薄であったので今後改善していきたい。

高等学校までに学ぶ事柄を前提として講義を進めている。それら基本的な知識・技能が身につけていない学生には難しく感じるかもしれないが、大学での講義は高校までの補習ではない。分からないことを講義担当者の責任にするのではなく、自身の知識・技能不足である事を自覚し、自学自修することの必要性・重要性に気付いてほしい。
試験では、可否を判定するための基礎問題に加え、最終評価の違いが出るよう標準的なものから少々難しい問題をバランス良く出題するよう心掛けている。
ある講義の宿題についてのコメントに答えよう。すべての受講生が簡単に解答できるものばかりを課しているわけではない。意欲ある受講生に向けた問題も含んでいる。
なお、まなびネットでは、丁寧な解説付き解答例を公開していたが、それらに全くアクセスしない学生が一定数いることを付記しておく。

授業アンケートを行った講義はいずれも対面形式であった。工夫した点は、概念習得の助けや試験対策のために、できる限り多くの演習問題を出題したことである。また、授業中に何人も当て、全員で理解しながら進めていけるように心がけた。
自由記述欄がほぼ空欄であったが、たった一人、次のような記述があった。『問題演習が難しかったですが、質問にも丁寧に対応してくださりよかったです。ありがとうございました。』
授業後や試験前に研究室へ質問に来る学生に対しては、丁寧に教えたつもりではある。しかしながら、全体的には、年々数学のレベル(理解力)が低くなっているように感じる。講義内容の修正・削減を検討する必要があるかもしれない。

独自に工夫している点は、授業の板書や配布する資料に多数の図表を用いて説明している点です。
改善点は、説明の足りなかったことを、次回の授業で忘れないように補足することです。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

・昨年度までの授業評価結果を踏まえ、今年度から各授業テーマに関連する課題図書を複数提示し、事後学習(読書感想文、合計5冊、授業テーマに関する学びを深める)に重点的に取り組んだ。受講者の反応も良く、今後も引き続き改善をしながら取り組んでいきたい。

知識・技能の習得だけでなく、できるだけグループワークを取り入れている。ただし大人数の授業では、積極的に取り組む学生とそうでない学生がおり、学生の主体的な取り組みをどのように促進するかが課題といえる。

実践事例などをグループワークを通し主体的に学び、それらを共有することで深い学びにつなげられるようにしている。

学生たちの専門性と関連付けた授業展開を考え、現場の状況も交えて授業を進めていった。さらにALの場を増やし実践力を付けていくように工夫したい。

ハイブリッド形式で、講義系はオンデマンド、対面ではアウトプットを中心に行いました。それらに対して、概ね高評価の結果が得られて、来年度からもこの方向で進めていこうと思っています。また、今年度から始めて、共通科目で完全オンデマンドを行いました。そこでの相互評価の評価に疑問を感じている学生さんがいることがわかりました。相互評価自体の意義や意図について、また実際の講義の評価について、来年度は講座で統一を図っていった方が良いと思いました。

理系の学生には、高校化学との関連性を示して、それとは異なる新しい視点を解説した。また、レポートの考察のポイントを示した。文系の学生には難しい内容であるので、親しみやすいトピックスを紹介したり、テーマに対して自分の意見を求めるような出席レポートを書かせて、講義への積極的な参加を促した。イメージやエッセンスを伝えられるよう努めたい。

演奏実践を絡めたグループワークを行っている。それを有意義だと感じた履修生がいて、嬉しく思った。

具体的な事例を紹介するなど、理解しやすいように工夫している。アンケートでは、わかりやすいという回答が多かった。今後も、学生にとって分かりやすい授業となるように工夫していく。

問題に対して自分の考えを遠慮なく出せるように、難易度を考慮したり、問題を分割して授業を進めている。アンケートの結果から問題の難しさが少しあったようなので、ジャンプ課題の刻み具合を検討する予定である。

座学が中心となる「物理(宇宙)」の授業において、一見、物理と関連の薄い事柄の背景に物理の法則がはたらいっていることを紹介することで、学生の興味や視野を広げられるような工夫をしている。概ね、授業内容に興味を持ってもらえたことがアンケートから分かった。一方、そこから更に学びを深めるよう、独自に学習を進める学生の割合が少ないようなので、例えば、提出を要しない課題を提示して、学生の自由な時間に、その課題について考えてもらえるような取り組みを実施したい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業方法では、事前事後も含めて十分に学びができる環境を確保するために、まなびネットを通して授業資料や補足資料なども提示するなど、工夫をした。学びの支援が必要な学生もいるので、授業外で分からないところを確認するなど、自分のペースで学びが進められるように配慮を行った。一方で、1年生の授業は2学年以降に必要なベースの知識提供を行う必要もあり、ディスカッションなどの活動が最低限になる授業もあり、その点については次年度以降展開を工夫し、うまく取り入れていくことも検討したい。

専攻科目を含め、後期科目は自主的な学びや学びの規律によって大きく成長可能な科目なため、ヒントを出して自ら考えてもらうこと(こちらからみると待つこと)を大切にしています。待つことと手を差しのばすことのバランスを今後も大切にしたいと思います。

教科内容科目の担当者として、学生が積極的に活動できるような環境を作るために、自らが全力で動きながら見本を見せるようにしている。また、どの表現に対しても肯定的な発言をするように心がけている。ダンスや表現運動は個々の自由さによってより面白い表現の発見ができることや仲間の表現を受け入れることで生まれる発想を引き出すためである。アンケート結果から授業の意図は伝わっているように感じるが、プリント配布をするなど後から見直し、今後に繋げていけるような取り組みも必要であると感じた。

予習→授業→復習の流れを作り、知識を定着させるフローを学生自身が身につけられるように授業運営をしている。予習をしたことによって、授業内容がわかりやすかったという自由記述が多数あったため、ある程度この運営方法が機能しているのではないかと感じた。一部、授業態度の指導が厳しかったという指摘があった。これについては、どこまで何を許容するのか難しく、真面目に授業を受けている学生にとって不利益とならないように、かつ授業に集中できない者への学びを促すような声かけを模索している。

まず、工夫をしている点についてです。教職科目に関して、指導法の授業を担当しました。指導法という科目の性格上、「場面指導」や「模擬授業」を行う必要がありました。しかし、本学は指導法の履修学生が多いことから、一人一人に十分な模擬授業を行ってもらう時間がありません。そこで、小グループに1台ずつiPadを配布し、実際の授業内における「場面指導」や、数分程度の「模擬授業」を録画してもらいました。また、iPadを活用することで履修者全員に小学校外国語のデジタル教材にふれてもらいました。

これらの取り組みが学生のみなさんにどのように受け取られたかは分かりません。改善の余地はあると考えますので、今後の検討とさせていただきます。

続いて、教職科目1科目及び専攻科目2科目に関わるアンケート結果を読み、以下のような振り返りを行いました。問1から問5までは、おおむね肯定的な回答が得られたようでした。教職科目では遠隔授業と対面授業を行いました。遠隔授業では、「授業者の顔は見えないまでも、声だけは届けたい」「テキストと音声を通して、『ラジオ講座』のような授業が展開したい」と考え、それを行ってきました。録音が届きづらい等があれば申し訳なく思いますが、授業時以外にも適宜資料を見直すことができる点を、授業後のコメントを通して学生さんから評価いただきました。

教職科目の問6及び問8において「どちらともいえない」という回答をいただきました。また、問7については肯定的な回答ではありましたが、「とてもそう思う」と「ややそう思う」が同数でした。ここから、本科目における学びは得られたものの、本科目の学びと他科目で得られた学びとの関連を見出すことができず、閉じた学びになっていたと学生さんたちが捉えていることが分かりました。担当していた授業が教科の指導法であり、本来であれば「場面指導」や「模擬授業」等の実践演習に関わる内容については汎用性や、他教科との関連性があると考えられます。しかし、得られた回答からは、教科特有の指導法等を授業者である私が学ばせ、身に付けさせようとしていたのだろうという授業の実態が浮かび上がりました。今後は、意図的に他の教科との関連性等について触れていきたいと考えます。

学生さんたちには、貴重な意見をいただきましたこと、感謝します。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

講義形式の授業におけるコメントシートを使った学生の意見の吸い上げ。特になし。

専攻科目の演習においては、主体的な学びとなるようグループ発表や質疑応答を多く取り入れた。介護等体験で欠席した受講生に配慮して、該当の授業ではできるだけ復習の時間を設けるようにしたい。

授業アンケート結果を知ることができ、今後の授業運営に大変参考となりました。乳幼児教育の特性を理解して、小学校以降の教育に繋げていけるよう授業の持ち方を工夫したつもりです。学生の皆さんがより理解を深められるよう、授業の持ち方・話し方などにさらに検討していきたいと考えます。貴重な機会をありがとうございました。

- ・化合物の構造をわかりやすくするため授業で分子模型を用いる様にしている。
- ・年々学生の理解度の低下が見られるので、基本的な事項を繰り返し振り返る様にしている。
- ・まなびネットで授業の復習ができるような工夫を一部の授業で始めてみた。
- ・同じ授業を受講しているのに、話し合いの機会などの大小の捉え方が異なるようなので、伝わる工夫がさらに必要である。

teamsやgoogle classroomを活用した、ICTを活用した共有・協働学習に取り組んでいる。

- ・授業に関する情報は、できる限り、多めに記述して作成し、学生に配布している。
- ・学生のわからない点・疑問点を把握するために、毎回の授業でコメントシートへの記述を求めて、次回の授業でフィードバックしている。個々の学生へのコメントシートを記述することは大変であるが、学生とのコミュニケーションを交わすことと、学生のモチベーションを高める上でも継続して行っていきたい。
- ・聴覚障害学生が履修する授業では、音声言語と手話を併用して説明している。教員が手話を使うことで、受講する学生はその手話をみて、手話の学習が進められる面がある。
- ・授業の進度が速いという課題があるが、聴覚障害児に携わる教員としての指導スキルを鑑みて、学生が理解すべき知識や求めたいスキルがあるので、1つ1つの授業での学習内容のバランスを再度考えた上で指導を進めていきたい。

すべての教材をe-Learningシステムで提供しており、学習者は自分が必要な時に閲覧やダウンロードができる。教材はテキスト(文章)の他、画像・音声・動画等、内容に応じて適宜提供している。課題等はインターネットを通していつでもどこからでも提出できる。

グループ活動ができにくい状況なので、友人の作成したレジュメを参考に個人で課題に取り組み、それに対して個別に丁寧なコメントを付けて返却するようにしている。回答者数が半数程度ではあるが、否定的な回答は1、2人だったので、今後もできる限り個別に対応したいと思っている。

私の担当科目は哲学であるが、大学における哲学の講じ方というのは、現代においては、どの国でもほとんど変わらない。その方法はすでに確立していると言ってよいと思う。よって私は、敢えて「独自」と称するような方法を採用しているわけではないと思う。ただ、哲学は難解ではあるので、常に「分かりやすく」を心掛けて授業に臨んではいるつもりである。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

集中講義の担当だったので、1日の中で授業構成にメリハリがあるように、講義、グループワーク、映像資料の分析課題などを織り交ぜて取り組んだ。
アンケートからは授業内容や方法について好評だったので、今後も一層学生が主体的に考えたり関心を広められるよう努めていきたい。

まなびネットにおいて、対面の授業に加えて練習問題と講義動画を公開した。
アンケート結果に依れば、おおよそ学習内容について理解を得られたように思う。演習問題とその解答をまなびネットで公開すると、学生にとっては取り組みやすいようだ。その点は充実させていきたい。

ICT機器を使つての授業についての紹介や実際の学校現場での体育授業などを紹介することが多い。体育の授業でどのようなことが大切か、また体育授業を学生自身が考える時間などを増やしていきたい。

資料は学びネットを通じて電子媒体での配布とした。
グループワークを基本とした授業を多く取り入れた。
コロナ禍の制限のある授業になってしまったので、まだまだ知識の伝達が多いように感じています。そのあたりが反省点として考えられます。

学習への意欲、授業への姿勢(授業には来るが不参加、授業中の離席など)、課題への取り組み・予習において、学生間に大きなばらつきがあることをふまえて授業を行なったが、授業にまじめに取り組む学生にとっては物足りない側面があったかもしれない。様々な学生にとって意味があるような授業ができるよう今後も工夫していきたい。

学生が教育実習生や初任者となったときに困らないよう、学校の現状を伝えながら授業を行った。受講する学生にも弱視や難聴など配慮をし、ユニバーサルデザインの授業を実施し、体験的に理解できるようにした。講義をできるだけ少なくし、学生が話し合ったり教え合ったりする時間を多くし、実技に重点を置いた。

既存の言語研究用データベースを利用したが、最終的にはそのようなツールを使って言語実態が知れることに興味を抱いてもらえたようだった。ただし、馴染みのないツールについていきなり最初の方の授業回で説明だけ受けても、すぐには利用目的が飲み込めない学生が複数いた。次年度は利用例などを丁寧に示すなど説明を工夫したい。

学生が自ら調べるなどの行動が取れるように、より興味を持てる資料を提示できるようにしたい。

受講学生の基礎知識に大きな幅があり、それにできるだけ対応できる様に心掛けてはいるが、難しいのが現状です。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

全体として肯定的な回答を受け、教員として非常に嬉しく報われた思っている。本科目は対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド方式とし、対面回では教科書の学習、遠隔回では大学が導入しているe-learningの学習を行った。割合としては、コミュニケーションの授業であることを踏まえて可能な限り対面回とし、遠隔回は、特に感染拡大が懸念される時期のみ実施した。

本科目では3クラスに対して指導を行ったところ、各クラスとも「自主学習や課題の指示」と「教え方の工夫」に対する評価がとりわけ高かった。一方で「自主的な調査」については、クラス間で温度差が見られた。指導にまったく差はつけていなかったのも、これはおそらく履修者同士の相互作用という側面が大きかったのではないかとと思われる。また、全体として「ディスカッションや質疑応答の機会」に対する評価が若干低めであったが、これは感染対策で例年より控えたのが主な原因であろう。今後、状況が落ち着いてきたら、ぜひとも改善したい。

自由記述の設問ではまず、遠隔回の課題量について改善要望が寄せられた。大学では1コマの授業につき、「90分+事前事後学習の時間」を確保することが求められている。そのため遠隔の場合、120分の課題自体は妥当である。しかし、その予習に長時間かかるのは確かに負担が多すぎるので、その点はぜひ再考したい。

辞書の持参については、各自意識を高め、大学で語学を学ぶなら必須ツールだと認識していただきたい。本科目では大学生・社会人レベルのものを勧めているが、すぐに入手できなければ高校で使っていたものを、ひとまず使用してほしい。

対面授業時の進め方であるが、教員側としては常に、予習の正答をただ述べるだけでは終わらないよう留意している。むしろ、正答に至るまでの思考過程や、なぜそれが正答なのかという理由の理解が大切なので、毎回、必ず履修者の解答を確認した上で、その完成度に合わせた指導や解説に力を注いでいる。また、これに加えて授業時には、発音や音読などの音声指導も欠かさず行っている。そのため、傾聴と積極参加に努めてきた履修者ならば、その度合いに応じて、予習時以上の学びが必ず得られるのではないだろうか。

レポートの草稿に対して、まなびネットの機能を通じてコメントを返している。このことについて少数だが肯定的な言及があった。授業中のディスカッションを適宜実施しているが、その機会が豊富であると認識されているかは授業によって差があるように思われ、授業期間の途中にでも受講生の受け止め方を確かめる必要もあると考えた。

工夫

- ・繰り返しによる基礎的な内容の徹底習得
- ・他学生との意見交流場面の設定
- ・つまづきを発見し、シラバスの修正による習得改善
- ・分かりやすい説明場面の設定
- ・集中力を高め作業する時間の設定

回答率が低かったが、アンケート結果から概ね実習科目の授業では授業内容の理解を深め、意欲的に学修に取り組むことができている様子が伺えた。対面授業において、学生同士のコミュニケーションや情報共有スキルを高めることが必要と考え、ディスカッションやグループワークを積極的に取り入れるようにしている。今回のアンケートの結果を受けて、授業内容の変更等の事前連絡をより一層早めに的確に行うようにしたい。

授業について、実感を伴った理解をしてほしいと考え、実体験を多く取り入れた。感染防止のため対面による情報交換を減らしたが、今後は、その機会を増やしたいと思う。

授業では、テキストを授業で読み進め、レポートでは学生が最新の論文を踏まえた上で理解できるかを求めている。

今回は、アンケートの未回答数が多かった。今後は周知をしたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

受講者にはエクセルを使った教育行財政関係統計の加工や簡単な分析を行う機会がこれまでなかったという事実を知り、急遽、エクセルのアドインの機能から説明するところから始めねばならず、その分、独自の調べ学習やディスカッションを行う機会を逸してしまった。しかし、その分、就職後に役立つようなスキルは身につけられたのではないかと感じている。今後は、統計数値をもっと積極的に活用するような構成を考えていきたい。

全員に前に出て1回発表し、そのフィードバックを経て再度発表してもらおうという経験をしてもらった。ガバナンスの学生にとっては新たな体験となりそれはよかったが、体系的な知識の提示が少なかったと反省したので、その強化を実施していく。

ほとんどの授業・回で、スタンドアローンな資料(紙、オンライン)を準備・配布している。配布資料には、学習効果を高めるため、受講生が記入するスペースを設定している。また、補助的な資料や課題(一部は任意)をまなびネットにアップし、より意欲のある受講生にも対応している。今後は、学習すべき内容・方法をより具体的に指定する。

- ・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。
- ・授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。
- ・現在、teams、まなびネットともにファイルの共有、課題の提出といった活用をしているが、アンケート機能やチャットの活用など、授業のなかで学生とのリアルタイムな意見交換ができればと考えている。

新型コロナウイルス感染蔓延時を想定して、まなびネット上の課題を充実させたり、できるだけ早目に具体的授業内容を伝えるようにしている。今後は受講者全体が授業に高い関心を持てるよう、グループワークの機会を増やしたい。

グループワークを頻繁に実施し、そこで出た意見を全体で共有できるように工夫している。資料の数が膨大になるときもあるため、共有する内容を厳選する等して、学生の負担にならないようにしたい。

自身が担当した授業について。

専攻科目(1)は、例年30名ほどが受講する。英語を教える上で最低限必要な知識を知ってもらう授業だが、コロナ禍ということもあり、「声に出して練習すること」は、今年度も、前年度(21年度)も、ほとんどできなかった。これからは少し時間を取って発声練習をしたい。

例年使っている教科書は盛りだくさんの内容だが、今年度はなんとか駆け足で最後までやった。しかし、それが必要だったか自信はない。ただ、学生の弱い点がだんだん明らかになってきたので、次年度(23年度)はそこを重点的にやっていきたい。

専攻科目(2)は、例年、受講者がきわめて少なく、授業作りに苦労している。今年度は5名、それに留学生が何人か聴講してくれて、授業がやりやすい体制ができたが、なかなか満足のできる授業はできていない(アンケート結果からも、それは推測できる)。

専攻科目(3)は、今年度はじめて開講した授業であり、どのようにやるのがいいか、迷ったが、言語生活という分野(おおむね、社会言語学のこと)を俯瞰できるような内容にした。そのため、これ一冊で言語生活がわかる教科書、というものが存在しないので、多くの論文を紹介する授業をすることにし、学生に論文を読んでもらって発表する形にした。このようなやり方がベストとは思えないので、次年度は工夫が必要である。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

グループ活動の進め方については、今後も改善が必要と考える。(グループ活動における留意点について、学生との確認が不十分であったので、まずはそこから改善していきたい。)

教職科目の授業では、小学校での現場で行われていることをなるべく再現した状況で模擬授業に取り組みました。例)黒板半面にプロジェクタ画面を投影。授業支援ソフトTeamsの活用。

いただきましたご意見を真摯に受け止めて、今後の教育活動に生かしていきたいと思えます。

家庭科の学習指導要領の改訂のポイントを詳細に説明したり、教科書の内容や構成をよく理解できるようにしたりしたうえで、実際に学習指導案を作成し、グループで模擬授業を行い、授業分析まで行い、より実践的な授業展開をしている。

理論を学ぶ際も、体験的に理解(実感)できるよう、適宜グループワークや実技を用いるようにしている。効果的であることがアンケートから見られたので、継続したい。ただし、学生が自ら調べるなどの活動がないこともアンケートから読み取れたので、その点を組み込んでいきたい。

特に独自に工夫している点はなく、オーソドックスな授業をしているつもりである。アンケート結果には、受講者同士が話し合う時間を設けてほしいとあったので、それを実施したい。

実践場面の具体と、その対応した指導法を具体的に考えるようにしている。参考資料等を工夫して、各種指導法のアイデアに結実するようにしたい。

更に改善していきます。

特別に工夫しているとは言えない程度のものですが、学生が「我が事」ととらえて理解できるように話しています。

授業開始前に、出席確認を兼ねて小テストを実施している。採点はその場で、学生間で行うため、基本的には正答と自己の点数は分かるはずである。しかし、授業で扱う内容に関する具体的な問題を解かせることから授業を始め、採点しない小テスト(実際には点数化しないのでテストではない)として扱うということを行ったこともあり、その説明は伝わっていなかったかもしれない。ということで、小テストの点数を公開してほしいとか、全く扱っていない内容が小テストで出たりした、といった自由記述があったのだと思われる。ここは十分な説明がなかったかもしれないので、反省点かもしれない。また、オンデマンド授業の回に対する課題の解答については、キチンと学習されていれば正答は分かると思われたので配布しなかったが、対面式のときに解説を付けて解答を配布すべきだったかもしれない。その点は次回は気を付けようと思う。さらに、毎回の授業と小テストとの関連が付いていない回があるという回答があった。対応は付けているのだが、その意図や資料の参照範囲が伝わっていない可能性がある。これも含めて、小テストの意図を解説する必要があると感じた。この点も改善点だと思われる。

まなびネットのほか、1年時に購入したICT機器を有効に活用することについて、工夫しています。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

オンライン(まなびネット)を併用することで、講義の事前準備や復習の効率化を図った。また対面での講義では、まなびネットでの事前学習を踏まえた上で、ディスカッション等を活用しながら各自の理解を深める試みを行った。

否定的回答について、直接改善をする。
工夫している点は毎時間コメントを集め、これを基に毎時間改善を考えていること。

デジタルデバイスだけでなく、リアクションペーパーなどによる対話も重視している。回答者の多くは良好に受け止めているため、今後もさらに対話を重視しながら改善を続けたい。

独自に工夫している点としては、ペアやグループワークを大切に互いに学び合う機会を入れ、教師一方通行にならないような工夫を心掛けている。アンケートを受けての改善点として、ペア活動の際に男女ペアなどで組むことに抵抗があるようなコメントがあったため、男女という分け方ではなくなるべく色々な人が組めるような組み方を心掛ける必要があると感じた。

全体として、ただ単に話し合いを中心に据えるのではなく、テキスト学習・講義的な学習を位置づけた話し合いを行うことで、認識の発達を中心とした学習と経験主義的な参加型学習の結合を目指しました。アンケートの結果を見た限りは、それなりに有効であったと言えます。ですが、実際には、学生のモチベーションを喚起するのに苦心したところもありますので、今後は、この点を課題としたいと考えています。

小・中学校での授業の動画を視聴し、それを分析・検討する活動において、まなびネットに掲載したオンデマンド動画を事前に視聴・検討させることで、より効率的、効果的な授業を行うことができたと思う。学生が主体的に学べるような内容や方法を引き続き探していきたい。

使える動画講義が多いので、活用している。専門や教養で使うプリントは、図説を入れてわかりやすくすることもある。他専攻への教科教育の授業に関しては、意図がまずまず伝わっていると感じられて、よかった。

講義形式の授業では「授業内容の「意義や必要性」の説明」の不十分さからか、「学びたいという意欲」が十分でなかった受講者が一定数いた。授業の中には、「授業のなかで提示された専門的知識を、体系的に、また他の分野や事象とも関連づけながら理解できた。」とする回答者がやや少ないものもあった。それぞれの授業には目標があり、基礎的な事象を地道に理解することに時間が割かれるものもあってよいはずであるが、そうであるとしてもある程度の全体性を意識した授業づくりを心掛ける必要があると、この度の結果を受けて考えた。なお、受講意欲を喚起するために、講義が一方方向性にならないよう、受講者自身、能動的に疑念を解消したくなるような機会・動機を作る工夫を試みたい。演習形式の授業では、基礎→応用へという段階を踏めるような内容を用意した。なぜその課題を取り上げるのか、そのことを理解することにどのような意味があるのかについて、受講者において十分な理解が及んでから臨めるよう、心掛けている。様々なレベルの議論があつていいことを繰り返し伝えることによって、受講者にも能動的な参加姿勢がうかがえるようになった。特に受講者相互で相談、整理を行う時間を設けたことが、授業の活性化には有効であったと思う。

アクティブラーニングを積極的に実施し、学生が積極的な姿勢で授業参加できるようにしてきた。今後もこれを継続していきたい。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

毎回の授業後にコメントシートを提出してもらい、次の授業はそこに書かれていた質問や感想への回答から始めています。今回のアンケートではこの方法について特に触れられていませんでしたが、これまでの学生からの評価が高いので、今後も継続する予定です。授業は基本的に講義形式で実施していますが、どうしても学生同士のディスカッション等の機会が少なくなってしまうので、この点については今後検討していきます。

対面を中心とした授業(演習)では、参加者それぞれが、共通テキストをどう読み、何を追加的に探究、考察するかは、各自の興味・関心に委ねている。ある程度以上、まなびの充実度が図れているようなので、この方法は引き続き、継続していきたい。また、オンデマンド中心の授業における「コミュニケーション」の取り方について、「あまりなかった」という回答があった。授業者としては、匿名性を守るため、回答された授業内容へのコメントや提出された課題内容の中から、とくに参加者と共有したい点を抜粋し提供するとともに、授業者のコメントも合わせてアップするよう心掛けた。そのことは参加者には必ずしも「コミュニケーション」の意味では捉えられていなかったようだ。今後は、シラバスなどで「コミュニケーション」を授業者としてどう定義して授業を進めるかを明記したい。

小中学校の授業において、より実践的な指導法や指導内容等について、教科書題材を中心に扱った。これまで以上に教育現場での実践力を養う内容にしたい。

できるだけ具体的な例を挙げて説明するよう心掛けているが、アンケート結果は未回答が多く、学生が興味を持てる授業内容になるようさらなる工夫が必要と思われる。

本科目は前期で実施された教育・福祉・医療・司法等の各領域に関する外部実習を含む「専攻科目(教育支援専門職養成課程)」を踏まえ、それらの体験を基に小グループでの発表を行う内容となっている。そのため、講義形式の授業と異なり、学生自身の主体的な取り組みやグループメンバーの構成により、学生ごとの学びや深まりに差が生じる要因となっている。上記の科目の特性から、授業者としてグループ間の質の差異をできるだけ小さくすることを目的に、発表の基本形態や一方的な説明・紹介のみならずディスカッション等を含めることなどを共通様式として提示し、グループ内での交流や役割分担などが発生するように工夫した。今後は、最低限の内容を枠組みとして提示しつつも、学生自身の主体的な取り組みや工夫を促す提示の仕方や働きかけについても取り組んでいきたい。

独自ではないかもしれないが、毎回の授業を対面で実施しつつ、予習復習に役立つように、まなびネットに授業内容コンテンツを配信している。アンケートは3つの授業のうち、一つは全く回答者がおらず、残る2つも半数が未提出であったが、回答した学生の概ね半数から良好な結果が得られたので、特に改善する点はないと考えている。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

【独自に工夫している点】

これまで講義の授業では、①テキストの適切な使用、②補助プリントの作成、③新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけ、④小レポートを活用した双方向的な授業などの工夫を行ってきた。遠隔授業(オンデマンド型)では昨年度作成した授業動画を大幅に作り直すことになった。動画の作成に際しては、見やすいスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示(関連づけ)に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。

【アンケート結果を受けての改善点】

アンケート結果から見て、授業の教育目標はある程度達成されたと思われる。教育をめぐる状況の変化はめまぐるしいので、毎年、新しい情報を盛りこんでいく工夫を続けたい。今年度は、クラスを2グループに分け、対面授業と遠隔授業を隔週で行ってきた。授業動画(スライドショー)については、おおむねよい評価をえることができたようである。オンデマンド型授業では、受講生相互の意見交換の場を設定することが難しかったが、「まなびネット」の「フォーラム」をある程度活用することができた。課題(小レポート)の頻度は、授業3回につき1回とした。このレポート提示のタイミングや提出期間までの時間的な余裕については、おおむねよい評価をえることができた。課題に対するフィードバックにも心がけてきたが、受講生によっては不十分に感じている回答もあった。この点が、今後の最大の課題だと考えている。

学生の意見を講義中になるべく多く聞く方法で進めており、アクティブ・ラーニングも多く用いている。学生の理解が、さらに深い学習につながるよう、改善をする。

弁護士や税理士、税務職員、選挙管理委員会等の外部の専門家と連携して、より現実社会の問題に即した教材開発と授業づくりに取り組んだ。アンケートの結果を受けて、丁寧なフィードバックや対話型の授業運営を通して、学生の意見を積極的に取り入れた授業づくりに取り組みたい。

共通科目について、少数ながら授業外の課題・活動が少ないことへの批判があったので、今後は、この点について、より負荷の多い授業運営を計画しようと考えている。

適度に振り返りを取り入れた授業展開を進めています。アンケート結果を踏まえ、今後も定期的な振り返りと反転授業を取り入れたいと考えています。

独自の工夫とは言えないと思いますが、できる範囲で写真や実物を提示するようにしています。多くの学生に「授業目標を概ね達成したレベル」であると感じてもらえるよう、課題数を減らすことで改善したいと思います。学生と信頼関係が築けなかったことは大変残念ですが、意見を示してもらえたことは非常にありがたいことです。今後は誤解が生じないよう、お互いを理解する機会を重視したいと思います。

美術史に関連した講義が多いこともあり、画像や説明文を示したパワーポイントを用意するとともに、必要な資料をプリントして配布している。アンケートへの回答率が低かったものの、回答者は全ての設問に対して概ね75%以上肯定的な評価をしている。一部、講義形式ならではではあるが、評価のやや低い項目もあり、改善を心がけたい。

主に共通科目について記述する。授業は講義形式とグループワークを組み合わせ実施した。講義形式の場合でもコメントペーパーで質疑応答の機会を設け、質問には可能な限り全て返答した。こうした工夫はアンケート結果にも概ね反映されていると理解した。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

PCを中心とした授業において、効率の悪さに対する指摘が見受けられ、改善余地があると感じている。学生の理解度の差が激しいため、どういった方法が良いか思案しないといけない。

授業内容や到達目標により反転授業やディスカッションを取り入れることもあるが、講義科目となっているものもある。

この後期の授業は全体的にクラスの人数が少なく、ゼミ感覚で各学生個人の理解度も見ることもでき、授業内容をしっかりと教授しやすく、また学生・先生の双方が楽しめた。

授業は個人レッスンの形で行うので、一人ひとりに対して、どうすれば良くなるかを短い時間のなかで、的確に指導している。しかし、個人レッスンなので、うまく疎通ができない学生がいることもある。

定期的な小テストを実施し日々の復習を促した。演習問題や定期テストの難易度に対する意見があったので、授業内での説明や解答例を充実させることで、学生が意欲的に学べるように工夫していきたいと考えている。

学生に興味・関心をもってもらうため、できるだけ分かりやすく、基礎基本を重視している。書道の特性を鑑み、理論と実技のバランスを常に考えている。また、苦手意識を克服できるよう、個人個人のレベルや達成状況の把握に努め、そして、それに合った対応を心がけているつもりである。

アンケート結果は調査参加人数が少ないため、参考にしにくいところもあるが、以下の点を改善点として更に努力していく所存である。

- ・グループディスカッションも多く取り入れていきたい。
- ・難しいが、他の分野や事象との関連づけを、さまざま考えたい。
- ・課題探求力を高めるべく、自ら主体的に調べる方法を模索したい。
- ・ICTの効果的利用を更に考えていきたい。

アンケート結果については、自由記述での意見が少なく、ややコメントしづらいが、語学については、コロナ禍のもとでのどの程度発音練習を多くするか、大変悩ましかった。学生それぞれにも考えがあるが、1年生～2年生ということで主張しづらいこともあり、安心感が得られやすいほうに合わせざるを得なかったのだが、それはそれで不満があったようだ。今年度も引き続き悩ましい。

工夫については、ネット接続可能なデバイスを持参して授業参加することを受講生全員に求めることが可能になったので、できるだけ活用するようにしている。具体的には、コミュニケーションペーパーと出席について、Microsoftあるいはgoogleのフォームを使って取ること、オンラインの実施に拘わらずMicrosoft TeamsでTeamを設けて、授業資料の掲示を行うなどである(学生にとってまなびネットよりも使いやすいように思えるが、あまり自信はない)。

「投稿」での討論はややハードルが高いが、もう少しチャット機能を(授業内容に関わることについて)使えば、と考えている。

長年教えている専門科目は、受講生の反応によって色々対応ができ問題はなかった感じです。一方で、今学期は初めて担当する科目が複数あったため、授業をこなすだけで精一杯で、工夫等は考えられる余地がなかったです。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

共通科目では、グループワークや討論・発表を重視。専門的な授業では先行研究や歴史資料のわかりやすい提示を心がけている。

アンケート結果を参照すると、参加型の授業の方が、学生の姿勢や満足度が高いように見受けられる。専門的内容の授業でも、コメントシート作成や相互の討論などを取り入れることができないか、考えて見たい。

アンケートへの回答依頼がきちんと伝わっていなかったようで、回答数が少なかった。今後の改善を図るためにも、声掛けが必要であった。その中でも、実技については、どうしても話し合いの場が少なくなるので、今後工夫が必要になる。

学生が主体的に取り組むことができるよう課題を工夫したりグループワークを取り入れて実施した。学生からの評価は概ね好評なので引き続き努力する。

グループ研究では、各グループ研究の独自性と良い点を適宜フィードバックし、調査へのモチベーションを向上させ、自ら主体的に学びを深めるように工夫している。ゼミにおいて、各授業回ごとに授業目的をしっかりと伝え、現在調査研究で不足している点とできている点をフィードバックしたうえで、今後どのようにしていけば良い研究になるか考えさせ、全体で共有する時間をもちたい。

演習科目では、文学作品の先行研究の要約や語句の注釈、異同の確認といった多様な観点からのグループ発表を実施し、作品を多角的に捉えられるよう意識している。

講義科目でも、講義を聞くだけにとどまらず、その講義で話した内容に関わる短時間のグループ討議を設けたり、板書の仕方に関する授業なら課題で自分なりの板書を考えさせたりと、学んだことを実践する小さな課題を毎回設けている。

専攻科目(1)(2)では、目標の達成レベルを超え優れて学んでいると感じたか、汎用的な能力を身につけられたか、といった間でそう思う・ややそう思うの回答率が高く、発表や質疑応答を通して学びを得たと感じる学生が多かったと思われる。今後も他の授業にも活用できる調べ方や考え方を示していきたい。専攻科目(2)では自由記述欄で、最終レポートの指定枚数だと足りなかったという声もあったので、目安枚数と最大枚数を別に設定するなど対応しつつ、これからも積極的に学びたい受講生にはその機会を多く与えられる授業を心がけたい。

専攻科目(3)と教科内容科目では受講生自身の学びの達成度への意識が、ややそう思うが最も多く、全体としてはやや低くなった。専攻科目(3)はゼミ科目なので、内容も発展的であり、難しく感じる機会が多かったかもしれない。発展的内容にもふれてもらう傍ら、そうした学びを自身の卒業論文などにどう活かせるか、その発展可能性を実感してもらえるようなフィードバックを意識したい。教科内容科目の自由記述欄では、最終レポートの指導案を書く時間が短かったとの指摘、フィードバックを書き合った後に閲覧せずに終わってしまう場合があるとの指摘があった。指導案に取り組める時間の確保や、フィードバックへのリアクションのタイミングを設けるといった改善を行いたい。また指導案は、通年で何を学ぶかをふまえて書けるよう、指定の教科書から教材を選び書く方がよいとの指摘もあったが、ある程度自由に教材を選ぶ方が各人が授業内容を考えやすく、人の指導案を読む時も多様な教材にふれられるかと感じる。指導案で想定する学級がその単元の前に何を学んでいるかは、指導案の学習者観の項目で丁寧に想像して書けるように指導したい。

まなびネットを活用し、対面授業においても、資料配布、遠隔指導、課題提出、状況確認など学生自身が自主的に可能となるように心掛けた。

授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

●独自の工夫について

1. 実技形式の授業について

実技系授業では、事前指導を何度も繰り返し、学べるようオンデマンドコンテンツで配信している。専攻科目については、対面で十分な時間をとり、小グループをつくり、ワーク形式で行っている。実習後は、具体的な事例に基づく、ケースカンファレンスも導入し、リフレクションの機会も多く作っている。試験については、視覚障害当事者の協力を得て、実際のアセスメントを体験させることで、即実践が可能なレベルか否かで評価している。評価基準は学生には厳しい内容と思うものの、現場が必要としている内容であり、目的養成である本学の実情を踏まえ、点数の低かったものについては補講を行い、単位を与えるようにしている。

2. 講義形式の授業について

基本的に、講義形式の授業はオンデマンド配信を中心に実施している。オンデマンドの動画については、75分を1コマとして、できる限り、事例検討を多く取り入れ、考えながら、進められるようにしている。オンデマンドで学んだ内容のリフレクション、質問、補足説明等については、対面形式で説明する機会を設けている。

●アンケート結果を受けての改善点

アンケート結果の6つの授業のうち、4つは、未回答率が8割を超えており、自由記述も見られなかった。そのため、結果を受けての改善点を検討することは難しい。一方で、共通科目については、満足度が高いこと、自由記述でも特別支援について、初めて情報を得て、関心を持たれた等の意見があり、内容的に妥当なものだったと評価できた。

アンケートの結果からではないものの、ポストコロナを見据え、対面/遠隔のメリットを活かしつつ、よりよい授業計画・内容の工夫を行っていきたい。

ポルトガル語は、ブラジル人にとっても難しい文法があって、日本人に分かりやすくなって、勉強も楽しくなる方法を見つけるように頑張っています。一つの結果として、ポルトガル語の複雑な文法が面白いパズルのように見られるよう独自で「パズルカード」というメソッドを考えましたが、より学習に役に立つ方法とよりポルトガル語に興味を持たせる工夫を見つけたいと思います。また、ポルトガル語を他の分野と関連して理解する方法も見つけたいと思います。そして、対面授業ということで、ポルトガル語の重要性を伝えながら、履修者が生活や職場でのリアルなシーンを想像しながらポルトガル語を積極的に聞く・話す機会を増やしたいと思います。それに加えて、時代に合わせて、授業中のラインを使った会話の練習も続けたいと思います。

愛知教育大学は、私の初めての講師の経験です。まだ分からない・まだできていないことが沢山ありますが、母語であるポルトガル語を教えることがとても楽しいと分かりました。ですので、自分の能力も上達しながら、将来履修者が先生になったときに役立つポルトガル語を教えていきたいので、今後も新たな授業教材などを考えたい・作りたいと思います。

学生が理解しやすいように最近のニュースや身近な現象話などの話題を授業の導入時に取り上げ、授業内容に入りやすく工夫している。また、生物学を履修していない学生もいるため、授業の初めにはアンケートを行い、学生がどの程度生物学に関する知識があるかを調査してから授業内容を組み立てるように工夫している。毎回ではないが、授業の感想などを記入してもらい授業方法や内容を考える材料にしている。今回のアンケート結果を受けて、問1、2の「授業の意義や必要性」、「教え方」の項目では「ある程度あった」「よくあった」との回答が多く見受けられ、それなりの効果があったことが分かった。問3のシラバスに関する部分も授業内容に則したものとなっているため、評価は高かったように見受けられる。問4のグループディスカッションや質疑についても講義の中で何度か実施しているためこの点についても今後も継続して行っていきたい。問5の目標に到達できたかとの問いでは「ある程度あった」との回答が多いものの、「あまりなかった」との回答が多く、この点は学生の目標と教員の目標の差があるように感じられたので、今後はもう少し改善する必要があるように感じた。問6、7の専門的知識、論理的思考力なども「ある程度あった」との回答が多いものの、「あまりそう思わない」との回答も見受けられ、改善の余地があるように感じた。専門的知識や論理的思考能力について学生が能力を実感しながら授業を受けられるよう、評価や内容の工夫が必要である。また、問8の文献調査などの自主的に行う項目でも、「あまりそうおもわない」との回答が4%ほどあり、この点も課題等で克服していきたいと感じた。